BS右旋4K放送

NHK 4月から番組改定先取り

好評番組をスケールアップ

日本の放送は、関東大震災1年半後の1925年（大正14年）3月22日、東京・芝浦からのNHKラジオ第一放送による第一声からスタートした。その26年後、名古屋で中部日本放送が民間ラジオ放送を開始。ここからNHKと民放との二元体制が形成され、現在に続いている。テレビ放送が始まったのは1953年。その中継網は東京―名古屋―大阪間から始まり、全国、世界へと拡大した。そした力ラー化、ハイビジョン化、4K8K、さらにはネット同時配信の時代へと進化を続けている。放送進化の鍵となるBS4K放送について、最新の動きを追った。

2K視聴者を4Kに

★「新BS4K」

BS4K放送を巡る動きでまず注目されるのがNHK。同局は、現在3波のBS右旋放送（BS1、BSプレミアム、BS4K）から、2024年3月末にBSプレミアム（BSP）を終了し、「新BS4K」「新BS2K」（いずれも仮称）を開始する。それに向け、今年12月1日に番組改定を実施。改定後、BSPの画面上で削減などの周知を展開したうえで停波する計画だ。

「新BS4K」は、「世界に通用する多彩なコンテンツ・高精細クオリティーの提供」がコンセプト。NHKは、番組改定を先取りする形で、4月から、BS4Kの内容を大幅に拡充する。

15日の会見で、メディア戦略本部長の熊埜御堂氏がその概要を説明した。ポイントは、①平日夜の好評番組のスケールアップ②土曜夜に特徴ある特集番組③4Kドラマの充実――の3点。

①については、月―木曜で視聴者から支持の高いレギュラー番組を、現在の60分サイズから90分サイズに拡張。午後7時30分から放送する。特集番組の人気シリーズも放送する。毎週最終火曜午後7時30分からは『究極ガイド2時間でまわる』シリーズをスタート。これは、日本人が観光地で過ごすといわれる2時間で、いかに楽しみ尽くすかを、独自取材で導き出した究極ルートを伝える番組だ。4月25日の回はエジプトのピラミッドを取り上げる。

②については、4月1日午後8時から、平安神宮の夜桜を生中継。同8日午後9時はMISIAの25周年ライブを放送する。③では、現在、日曜午後6時から、BS4KとBSプレミアムで、総合テレビに先駆けて放送している大河ドラマ『どうする家康』について、その放送時間はそのまま、BS4Kでは同16日から、さらに早い時間の日曜午後0時15分からも放送する。

そして同じく毎週日曜午前11時30分から、08年の大河ドラマ『篤姫』を4Kで、また4月下旬には金田一耕助シリーズ第4弾『犬神家の一族』を2週にわたって放送するなど、4Kドラマのラインアップを拡充する。

4K番組のほとんどはBSプレミアムでも編成し、できるだけ多くの視聴者にコンテンツを届けられるようにする。現在、BS1、BSPで2K放送のみを視聴している人たちにも4Kテレビ、4K放送にシフトしてもらえるよう、衛星放送をさらに充実させていく構えだ。

視聴可能機器2500万台へ前進

★1500万台突破

新4K8K衛星放送視聴可能機器の累計出荷台数は、2022年12月末時点で1516万9000台と、1500万台を突破した（放送サービス高度化推進協会：A―PAB発表）。18年11月の新4K8K衛星放送開始から4年で達成したことになる。

1月末累計は1543万4000台、2月末累計は1567万3000台と着実に増加している。

A―PABが目標としている、24年のパリオリンピックの時点で2500万台という数字は達成がやや厳しい状況だが、パリオリンピックをはじめとする4Kのスポーツコンテンツ、NHK「新BS4K」の意欲的な編成、BS民放の多彩な4K番組などが視聴意欲を喚起し、24年内に2500万台に近くまで普及すると考えられる。

A―PABは定期的に、NHK・BS5社共同キャンペーン「新4K8K衛星放送キャンペーン特別編』（25分）を制作し、キャンペーン期間中、NHK（総合、BSプレミアム、BS4K）、BS民放5社がそれぞれ放送している。

★4K基本に帯域再編

一方で注目されるのは、4Kを基本としたBS右旋帯域再編の動きだ。

新たな3chの公募開始

22日から、右旋で4K放送を実施する衛星基幹放送事業者（3チャンネル分）の公募が開始され、その行方が注視される。

申請では、現在、BS左旋帯域で4K放送を実施しているショップチャンネル（SCサテライト放送）やQVC（QVCサテライト）、WOWOWの動向が焦点になりそうだ。

ショッピング系のチャンネルには、BS4K放送事業者を認定するための比較審査基準にある「広告放送が3割を超えない」が大きな壁になるが、現在BS右旋では、同じショッピング系のジャパネットブロードキャスティングが2K放送事業者として放送を実施している。ショップチャンネルなどはジャパネットの放送への取り組みが参考になりそうだ。

また、BS右旋の2K放送事業者であるトゥエルビ（ワールド・ハイビジョン）、BS11（日本BS放送）などの動きも注目される。

新たな4K放送事業者は、電波監理審議会への諮問・答申を経て夏ごろに認定される。認定事業者が放送を開始するのは24年末から25年ごろになる見込みだ。

総務省 情報流通行政局 衛星・地域放送課の安東高徳課長は、新規、既存問わず、多様なアイデアが反映された応募がくることに期待する。

また安東氏は、自由な選択を前提に、2K放送事業者が映像符号化方式にHEVCも活用できるようにし、それを活用したい事業者が出て帯域が効率化されることで、1トラポン分の空きスロットができる展開を想定。それを継続することで、再編・募集を繰り返す状況をつくることに意欲を示している。

BS右旋4K化の流れの中でBSプラットフォーム料金の値下げも実現する。

BSの管理会社であるB―SATは、2011年2月から継続してきた2K放送中継器基本料金を21年10月に10%値下げした。

次いで、2K4K8K放送統一中継器の基準料金を、23年12月に値下げする予定で、そこからさらに15%程度の値下げを検討しており、右旋4K放送については約24%値下げする方針を明らかにしている。

特別番組『チコちゃんに叱られる！新4K8K衛星放送キャンペーン特別編』

放送記念日特集

放送98年（3月22日）

株式会社 NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 野口周一
〒150-0047 東京都渋谷区神山町四―十四（第三共同ビル）
電話 〇三（三四八一）七八二〇
FAX 〇三（三四八一）七六二三

NHK ART
代表取締役社長 平田恭佐
株式会社 NHKアート
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-7 アートビル
TEL (03)3481-2881
FAX (03)3481-2905
www.nhk-art.co.jp

NiTRO
「見たい」を「魅せる」
(株)日テレ・テクニカル・リソーシズ
〒105-7419 東京都港区東新橋 1-6-1 日本テレビタワー 19F
TEL:03-5275-1115
FAX:03-3574-5455

一般社団法人 日本ケーブルテレビ連盟
理事長 渡辺克也
〒104-0031 東京都中央区京橋一―十二―五 京橋YSビル四階
電話 〇三―三五六六―八二〇〇
FAX 〇三―三五六六―八二〇一
URL http://www.catv-jcta.jp

JLabs Japan Cable Laboratories
一般社団法人 日本ケーブルラボ
理事長 田﨑健治
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町三丁目4番2号 KDX茅場町ビル 3階
TEL 〇三―五六一四―六一〇〇
FAX 〇三―五六一四―六一〇一
URL http://www.jlabs.or.jp/